

第3回東郷地域協議会会議録(要約)

日時 令和5年6月20日(火) PM7:00～9:00
場所 新城市役所4階会議室
出席者 委員28名 事務局4名

次第

- 1 あいさつ
 - 2 報告
(1) 令和5年度地域自治区予算事業の進捗状況について
 - 3 協議
(1) 令和6年度地域自治区予算事業の検討について
 - 4 その他
(1) 地域計画推進体制検討会からの報告について
-

1 あいさつ

2 報告

- (1) 令和5年度地域自治区予算事業の進捗状況について
 - ・地域防災連携促進事業(東郷HUG)
 - ・多世代交流事業(東郷学び学校ボランティアスタッフ募集)
 - ・関係人口創出促進事業(ローカルキャリア開催)
 - ・子育て世代交流促進事業(ほっとひといき講座開催)
 - ・長篠設楽原の戦い歴史検定作成事業(歴史検定初級編の開催)

3 協議

協議会の会議録署名

- ・定数29人のところ28人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を2名指名し署名をお願いした。

(1) 令和6年度地域自治区予算事業の検討について

(事務局説明)

- ・前回の地域協議会での意見に対しての市担当課の取り組みや意向を整理するとともに、実行団体の来年度予算要望など。

その後、地域計画の5つの柱ごとにグループにわかれ、令和6年度地域自治区予算事業計画の検討を行った。グループ討議終了後、各柱のリーダーから議論内容の発表があった。以下発表要旨。

柱1 暮らそう

・本日は、公共交通対策課が来てくれたので、足を考える会の今までの経緯や現状を聞き検討を行った。足を考える会では、地域の皆さんからアンケートや聞き取りを行ったりして作成したSバス北部線のルート改変案を来年度から運行したいと検討しているが、まだまだ問題もある。Sバスが通らない地域の方たちは、移動手段としてタクシーを使わないといけないなど、その部分をどうしていくかということも検討している。参考情報として今年から千郷地区の西部線は、バス停まで行けない方が、スマホを使って予約をして、そこにルートとして来てもらうという運行形態に変更された。東郷地域でも、今後アプリ開発などしながら、そのような手法も来年度検討してもらえないかという話も出た。また、一番需要があるのが午前中の高齢者の病院受診や買い物なので、行きはバスを使って、帰りはばらつきがあるので、タクシーを使って帰ってくるという仕組みはどうか。その中で、来年度の検討として、タクシー助成券を市の方からもらう形で出せないかということも検討していけたらどうかということで話を進めた。明日、足を考える会の会議があるので、そこで来年度予算の検討も行いながら、足を考える会と連携を図りながら進めていきたい。

柱2 守ろう

- ・1点目は、ごみ集積場の改修改善について、ネットでのみ被せていてカラス被害が出ているところが多々あるということで、とても田舎的ではないかという意見が出ている。ごみステーションを置く上で立地条件などいろいろ制約があると思うけれども、まだまだ未整備な地域があり、苦情が多くあるため、改めて見直し提案を考えていきたい。設置に関するガイドラインや予算、設置場所や事例、あるべき姿を検討しながら、市生活環境課と区長会と連携を取りながら予算取りをして、事業計画化を図り、ごみ集積場のより良い環境改善をしていきたいという方向性で今考えている。
- ・2点目は、グリーンベルトの剥がれや老朽化が発生している。剥がれた塗料が水路や田んぼに入り込んでいるという苦情もある。ただ、現状を見る限り、余りにも予算がかかり過ぎることが分かった。一本引くのに長いと1,000万円以上かかってしまうことから、地域協議会でとても話すレベルじゃないという結論となった。市土木課や学校、区長会と連携をとりながら、事業計画化を改めて要望を提案していきたいが、予算を含めて、余りにも壁にぶち当たってしまった。今頓挫してしまっている状態。
- ・3点目に、地域協議会を活性化させるという意見があった。地域協議会はとても前向きな話をしているが、活動のPRがどうしても不足している。現役区長も地域協議会の動きがよく分かっていない。なかなか分かりづらいという声もあった。地域協議会の動きを区長会に報告連絡相談を含めてやっていった方がいいのではないかと。地域協議会も区長会も限られた回数や時間でしか話されていないので、より活性化をするために地域協議会から区長会にもっとPRして、前向きに改善させていきたいという意見が出ている。

◎主な意見

事務局 ごみ集積場の件は、区長会や生活環境課と連携をとりながら予算を今後検討していくということだったが、今回の会議までに事務局として何かアクションを起こしたりすることあるか。例えば、担当の生活環境課の職員を次の会議に呼んだりすることも可能だが。

- 委員 まだそこまでは具体的な話ではなかった。予算取りをどうしていくか計画をどうしていくかという話までは至っていないので、事務局にお願いすることはまだない。
- 会長 最後の方で良い意見が出ていた、区長会と地域協議会がもっと親密になれればと思っているので、どうにか区長会とコンタクトを取っていききたい。またその節はよろしくお願ひしたい。

柱3 育てよう

・稼ぐというか収益性を上げていく事業を何か作れないかと話し合っている。色々なアイデアが出た中で、やはり地域の困りごととは何かと考へた時に、やはり草刈が年々大変になってきている。普通の手で刈るタイプではなく、押すタイプの草刈機がかなり楽。例えば、その楽な機械を地域協議会の提案で1台買って、それをみんなでシェアしながら使えるようにするのはどうかという意見が出た。例えば、年会費を1人3,000円など幾らかもらい、皆が共有で使えるような仕組みを作ってはどうか。故障やケガなど色々問題はあろうと思うが、そういうことをやっていかないと、これからどんどん高齢化して、草がどんどん生えてくる。また、鳥獣害の被害も増えていくので、何とかそういう困りごとを解決していかないといけない。例えば、馬防柵周辺の草刈をみんなでやるということもイベント化して、市外県外から人を呼んで、新城に来てもらい草刈を体験してもらい、お金も払ってもらい、関係人口を作りながら、新城を体験してもらい、移住や定住につなげる。草刈という困りごとを逆転の発想で何とか活用できないか。最終的には、草や間伐材、剪定のチップの処理に困っているが、それが肥料になってお金になればいい。例えば、どこかに持っていったら草がお金になるという仕組みが出来れば面白い。有機農業では草や堆肥が重宝する。昔は草は取り合いだったらしい。堆肥化し、それを使った食材を給食センターで使うなど。話が大きくなってくるが、これは市全体で取り組めばいいことだけれども、市全体で取り組む前にまずは東郷地域でチャレンジしてみてもいいのではないかという話が出た。みんなが困っている草が逆に有効に活用でき、それが循環するまち。今流行りのSDGsのような感じで循環していく。ごみを出さない、ごみが資源になる地域になっていけば、困りごととも解決するのではないか。かなり大きな話となるが、最終的にはそれを誰がやるのかが一番問題になってくる。そういう担い手の部分は全然話が出来ていない。今回はアイデアが出たという段階だが、これがどこに着地するのかまだ分からない。また、いつまでに着地しなければいけないのかも分かっていない。

◎主な意見

- 会長 出来れば、本当に東郷地区でモデル事業で出来るといいとは思ったが、今年に限らず、何年かかけて話し合っていたきたい。
- 事務局 何月までに話し合いをまとめないといけないということだが、最初にスケジュールを決めたと思うが、地域自治区予算を考へる上で計5回話し合いがある。本日は2回目で、5回目は最終案の確認という感じであるため、来年度事業を予算化する検討会議は残り2回がリミットとなる。ただし、地域自治区予算は、市で事業を実施するという方法だが、それ以外の選択肢もある。昨年度、学ぼうで出た意見として、設楽原合戦場で採れたお米をブランディング化し付加価値をつけて売り出したらどうかという意見があり、それは結果「めざせ明日のまちづくり事業補助金」を使って実行団体を立ち上げ現在事業を実施している。このように、地域自治区予算だ

けが一つの解決策ではない。ただ、地域自治区予算でやるとしたらラスト2回ということだけ目安として覚えておいていただきたい。

柱4 学ぼう

- ・来年度予算は、実行委員会で担当課と話をした内容をもって報告とした。まず印刷製本費については、初級編の増刷は無くていいということになっている。昨年度に300冊印刷して今年度300冊増刷する予定でいるが、まだ設楽原歴史資料館としてはそこまで売れていないので、来年度初級編の増刷はない。中級編の300冊のみとなる。一方で、啓発用のポスターやチラシの印刷代を考えたい。チラシを外注して、市外の学校や教育施設に配布ができればということを考えている。今年度はなかなかPRが進んでない状況。長篠・設楽原の戦いが「どうする家康」で放送されたことによって、保存館や資料館がかなり忙しくなっているので、職員が動けないでいる。そのため、チラシやポスターを作成してPRが出来ていないと感じている。8月の検定試験までにどのくらい動いてもらえるかというのが悩ましいところではある。問題集の表紙をそのままポスターにすればいいのではというところもあり、もし館長に相談ができればそんなことを言っていきたい。また、検定試験についても、学校単位で団体申込ができれば、申込もしやすくなるのではないかという話もあったので、そこも学校の方にPRをしていく方法として有効ではないか。
- ・今年度予算になるが、もつくる新城を中心としたウォーキングマップの作成がある。こちらも「どうする家康」の話になってしまうが、牛淵橋から見た長篠城の風景についても、ちょうどドラマでその映像が取り上げられたので、もつくる新城から牛淵橋まで歩けるといいのではと構想が広がった。一度観光課と話をさせていただきたい。
- ・PRに関しての動画等で発信するという点については、全然進まなかったもので、これから検討していきたい。

柱5 楽しもう

- ・ケッターパークについて、予算積算は概ねこのままでよいのではないかと。ただ、広告宣伝費の部分について、もっと予算は取らなくていいのかということも1点団体に確認いただきたい。あと、初級者向けに可能であれば大会を隔月で行ったらいいのではないかと意見もあったので、そういったイベントの費用等の積算も必要であれば、もちろんケッターパークを運営されている方々は、先ほど忙しいと話もあったので、もし可能であればで良いので、その予算も積算していただきたい。
- ・着ぐるみについて、予算積算のとおりで問題ないと考えている。耐用年数が5年以上ということで年間10万くらいなので、費用対効果的にはそこまで問題ないと話も出た。ただ、製作しやすいものがこの3キャラクターの中から出てくると思うが、どれが製作しやすいのか、もう一度「かんぼうや」に限らず予算積算をお願いしたい。
- ・ホームページについて、東郷広報PR部員の取材記事作成報償費は4,000円×52週で、合計208,000円の積算をしているが、こちらは先日私も広報PR部の会議に出席してきたが、先ほど話があったとおり、現在はディレクターの研修を行っていて、記事の質を上げている最中である。ディレクターとライターと役割を分けて予算を取っていくと、大体一記事につき10,000円くらいが基本的には妥当であると。今後、広報PR部を独立させていく上では、これくらいの予算を、1人10,000円×年間100本程度の予算が必要となってくるという話を

実行団体から聞いているので、可能な限り予算上許される範囲内で取ってあげたいというのが楽しもうとしての意見になっている。再度、団体に聞いていただき、細かい予算積算、マックスでも150万くらいに収めて欲しいが、一度確認をしていただいて返答次第でもう一度検討したい。そして、もちろん独立が前提というところと、あくまでも初期投資であるので、これが毎年出ると思わないでいただきたいというところは、きちんと団体に話をしておいてほしい。

- ・屋外イベントについて、地域計画には載ってはいるが、無理にやらなくてもいいのではないか。ただ、東郷体育振興会など、地域で何かイベントをやりたいというところがあれば、そこに意見聴取を行って予算を付けるのも手ではないか。また、他の柱の案の中で、今後様々なイベントが開催されると思うが、集客が必要なことが出てくるかと思うので、そういった集客用のイベント、例えば東郷学び学校と同日開催で集客できるようなイベントを開催して欲しいという行政の予算づけは楽しもうから出来ると思うので、他の柱の皆様からご意見も今後いただきたい。

4 その他

(1) 地域計画推進体制検討会からの報告について

- ・事務局から、地域計画推進体制検討会発足の経緯や地域計画推進における課題を説明
- ・その後、地域計画推進体制検討会の加藤副会長から、検討会のこれまでの検討結果や市長に提出を予定している「東郷地域自治区における地域計画推進体制の新たな仕組みについての提案書(案)」を説明。

⇒特に委員から意見はなかったが、次回の地域計画推進体制検討会の会議が7月14日に予定されているので、何か意見があればそれまでに事務局に申し出てもらうこととなった。

【21:00 終了】